

【活動日誌130】

アカミミガメ・アメリカザリガニの規制開始の啓発ポスターを掲示しました

当館では一号棟1階の廊下にある掲示板を活用し、他館の企画展やイベントのポスターのほか、環境省・農水省等政府の環境政策に関するポスターを掲示しています。

今回掲示したのは、アカミミガメとアメリカザリガニ(以下、「両種」とします)の新しい規制が始まることを啓発するポスターです。本年6月1日より両種が条件付き特定外来生物に指定されます。それに伴って6月1日以降はアカミミガメ・アメリカザリガニを池や川などの野外に放したり、逃がしたりすることは法律で禁止され、違反すると罰則・罰金の対象となります。

現在両種を飼っている人は飼い続けることはできますし、野外で捕まえたりすること自体は今後も禁止されません。ただし、きちんと飼育せずに両種が自力で逃げ出した場合も違法となることがありますので、逃げ出したりしないように、適切に飼育してください。

より詳しいことを知りたい方は、下記のリンクをご参照ください。

(スタッフ 廣瀬)

■2023年6月1日よりアカミミガメ・アメリカザリガニの規制が始まります！

<https://tinyurl.com/mr3dydjt>

環境省の新しい規制の詳細に関するページです。



- ① 今回掲示したアカミミガメ・アメリカザリガニの規制開始の啓発ポスターと博物館のお知らせスペース
- ② スタッフが飼育しているアカミミガメ。6月1日以降も飼育自体は禁止されないの、最後まで責任をもって面倒をみましょう。

【活動日誌131】学芸員課程実務実習：植物標本と昆虫標本の作成

学芸員課程受講生による実習が続いています。先日は本学で生涯学習概論を担当されている馬谷原先生により「自然史資料の収集・資料化」をテーマとした1回目の実習が実施されました。

実習の前半では、植物のさく葉標本を作成するために、まず大学の敷地内に生えている植物を採集しました。植物を採集するときのポイント(花や実がついているものを採取する、小さい草は根も含めて採取する など)や、押し葉にするときのポイント(葉の裏表が両方観察できるようにする、台紙からはみ出さないように必要に応じて植物を折る など)を教えていただき、一人ひとりが3点ずつ新聞に挟んで段ボールで押し葉をし、次の完成に向けて各自が持ち帰りました。

実習の後半では昆虫標本の作成に取り組みました。馬谷原先生に事前に採集していただき、学生たちは馬谷原先生が採集したチョウ類の展翅を体験しました。

獣医大学である本学で学ぶ学生にとって哺乳類は身近な存在ですが、植物や昆虫に接する機会は多くはありません。植物標本も昆虫標本もどちらも初めて取り扱う学生がほとんどのようでしたが、みな熱心に取り組んでいました。

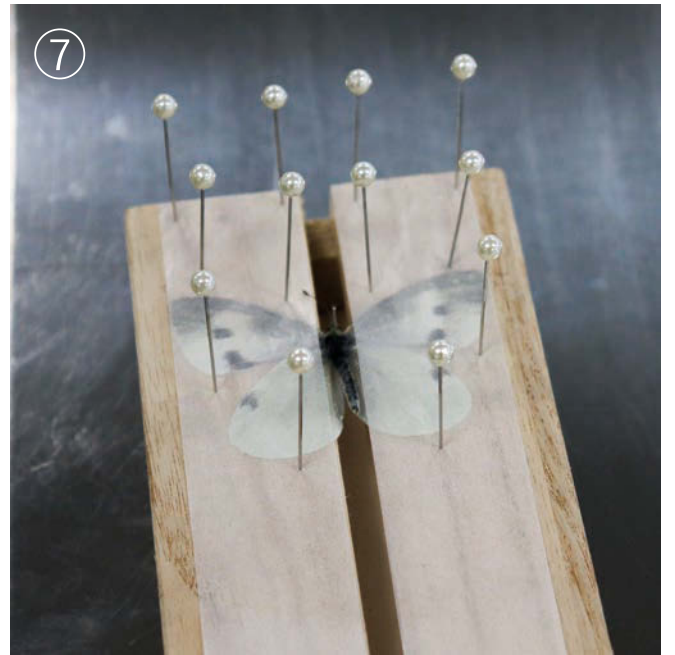
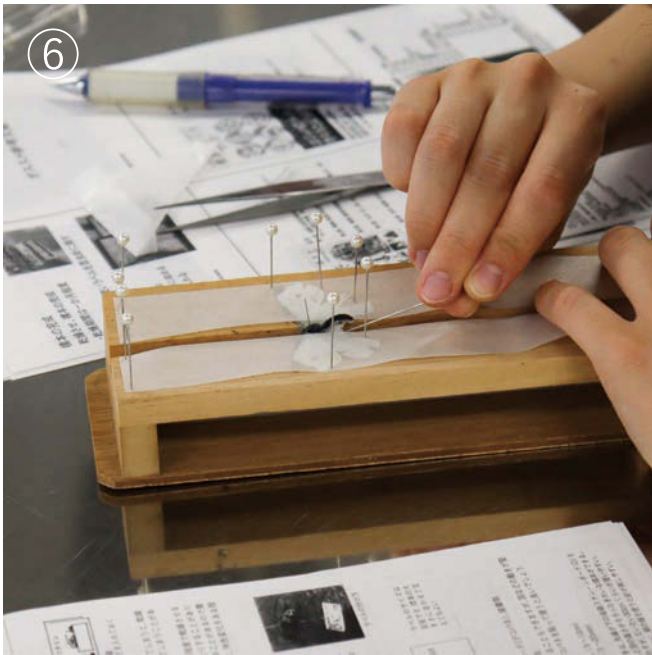
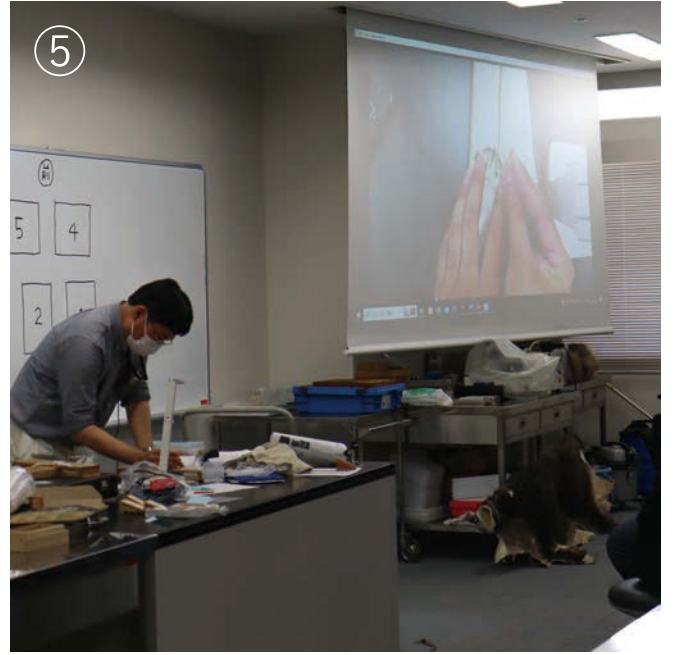
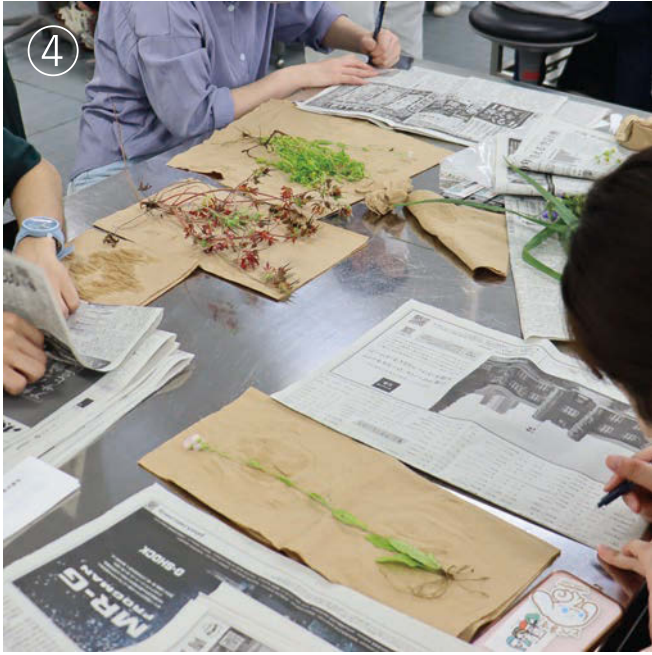
馬谷原先生による実習の2回目では、標本を完成させ、標本の情報整理作業を行う予定です。

(学芸員 石井)



- ① 植物標本作りの様子①: 大学敷地内の空き地で植物の採集を行いました
- ② 植物標本作りの様子②: 学生一人ひとりが3点ずつ植物を採集しました
- ③ 植物標本作りの様子③: 小さな植物は根も含めて採集し、根に付いた泥をしっかりと洗い落とします

2023年6月3日の記事



- ④ 植物標本作りの様子④: 葉の向きに気をつけながら新聞紙に挟み込み、採集場所・採集日・採集者などの記録をメモしておきます
- ⑤ 昆虫標本作りの様子①: 先生が実際に展翅を行う様子をスクリーンに映しながら解説をしてくださいました
- ⑥ 昆虫標本作りの様子②: 学生が慎重に展翅を行っています
- ⑦ 昆虫標本作りの様子③: 展翅が終了した標本は次回の実習までの間乾燥させます

【お知らせ】「多摩のあゆみ第190号」に寄稿しました

「多摩のあゆみ」は公益財団法人たましん地域文化財団が発行している季刊郷土誌です。歴史・民俗・地理・自然などをテーマに、多摩地域に関する論考や情報などが掲載されています。2023年5月31日に発行された第190号にスタッフが寄稿した文章が掲載されました。

第190号は「多摩の大学アーカイブズ」がテーマで、多摩地域に校舎を構える4大学が寄稿しており、当館もそのうちの一つです。各大学のアーカイブズ機関が、収集・保存する収蔵資料について、地域史の視点から紹介しています。当館は本学の一号棟に展示されているキリンの骨格標本について寄稿しました。キリンの骨格標本については来歴が不明とされていましたが、国内で初めて繁殖に成功したキリンのペア(長太郎・高子)の次男(長次郎)であることが当館の調査により明らかとなりました。多摩のあゆみ第190号では、長次郎の誕生から本学に来るまでの歴史を紹介しています。

なお、当館では8月からキリンの長次郎をテーマとした企画展の開催を予定しています。企画の詳細は改めてFacebookで紹介しますので、どうぞお楽しみに！

〈公益財団法人たましん地域文化財団より：多摩のあゆみの入手方法〉

①ご来室・ご来店の場合

たましん地域文化財団 歴史資料室(国立)または多摩信用金庫本店・各支店にて無料でお配りしています。なお、本店・各支店でのお受け取りをご希望の方は、ご来店前にご利用の店舗へお問合せの上、在庫確認をしていただくようお願いいたします。

②ご郵送の場合

下記お問合せフォームにご希望の号数(例：190号)と冊数をお申し込みください。ご郵送の場合は「ゆうメール(着払い)」のみのご対応となります。

<https://www.tamashin.or.jp/blank-2>

※「多摩のあゆみ」に関するお問い合わせは公益財団法人たましん地域文化財団宛にお願いいたします

■公益財団法人たましん地域文化財団 多摩地域の歴史・文化

<https://www.tamashinhistory.org>

「多摩のあゆみ」に関する詳細情報はこちらのサイトで紹介されています

2023年6月8日の記事



- ① 多摩のあゆみ 第190号 表紙(たましん地域文化財団提供)
- ② 財団の方がご挨拶に来てくださったので、長次郎の見所を紹介しました

【活動日誌132】オオバンの標本を作っていました

博物館では、ワークショップ等で教材に利用できる動物の骨や鳥の羽根などの収集、教材用の標本の作製を行っていることを度々ご紹介していますが、先日、教材用羽根標本の作成でご協力をいただいた「やまがたヤマネ研究会」代表の中村夢奈さんに、博物館で保管していた教材用の翼と骨について、同定と羽根標本づくりをお願いすることになりました。

作成していただいたのは、2022年の3月に採取した翼と胸骨で、どちらもオオバンであることがわかりました。翼の部分は2つ採集していたのですが、ちょうど右翼と左翼のセットだったため、今回は左翼をやまがたヤマネ研究会に寄贈するとともに、右翼と胸骨、羽根を抜いた腕の骨を標本にさせていただきました。

完成した羽根標本ではオオバンの特徴である次列風切の白い部分がよくわかります。また、中村さんにすてきなイラストも書いていただきました。

こちらの標本は当館所蔵資料として、また教材としても今後活用していく予定です。
*野生動物の羽などを採取したり、標本作成のための作業をしたりする際は、衛生面での注意が必要です。

(スタッフ 廣瀬)

■【活動日誌81】教材用の鳥の羽を集めています

<https://bit.ly/3ltoYVI>

翼を採取したときの様子はこちらの記事で紹介しています



- ① 完成したオオバン右翼の羽根標本。次列風切の白い部分がよくわかります。台紙の右上にはイラストを書いていただきました。
- ② 胸骨と右腕の骨の標本。保管にぴったりのケースに入れて届けていただきました。

【活動日誌133】学芸員課程実習：掛け軸の取り扱い

本日の記事も学芸員課程受講生による実習報告です。

先日は本学で博物館展示論を担当されている藏田先生により「絵画・書籍の展示」をテーマとした実習の一回目が実施されました。

実習の前半では、藏田先生に掛け軸のパーツの名称を教えてくださいました。実際に掛け軸を掛ける様子を見本を見せていただきました。後半では学生たちが実際に掛け軸に触れ、一人一人が掛け軸を軸箱から取り出し、掛け、巻き取り、しまうところまで、掛け軸の取り扱いを一通り学びました。初めて触れる掛け軸を目の前にして、動きがぎこちなくなってしまう学生もいましたが、藏田先生に丁寧にご指導いただき、全員が掛け軸を展示する際のコツや注意事項を学ぶことができました。

藏田先生による実習の二回目では、書籍を展示するための台の作り方を教えてくださいました。予定です。

(学芸員 石井)



- ① 藏田先生によるデモンストレーション
- ② 掛け軸を巻き取る学生
- ③ 掛け軸をしまう時に巻き付ける紐(巻緒)の結び方にもコツがあります
- ④ 掛け軸に書かれている文章を理解するため、くずし字のの解読にも挑戦しました

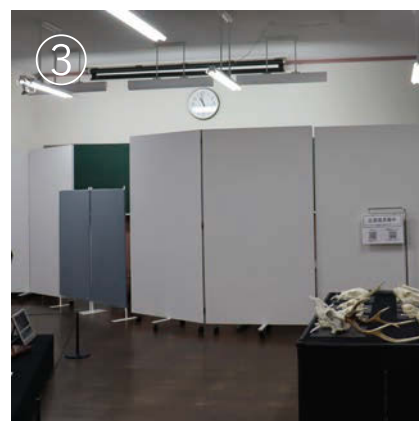
【活動日誌134】2023年度企画展示を準備中です

以前の記事でも紹介しましたが、現在当館では8月からの2023年度企画展開催に向けた準備を進めています。2023年度は、当館が保有する骨格標本の主である、キリンの長次郎をテーマとした企画展の開催を予定しています。4月22日の記事では企画展の準備のために自然系展示室の剥製の配置換えの様子を紹介しましたが、先日は企画展の展示スペースに配置する展示台や2022年度の企画展を開催していた企画展示室からパネルパーティションを移動し、設置を行いました。

これまでに、企画展の展示内容を決めるための調査や展示用資料の収集等を行ってききましたが、今後は8月の企画展開催に向けてパネルの制作の準備等も本格化します。

皆様に御覧いただけるようになるまで、これからも日々準備を進めていきますので、どうぞお楽しみに。

(スタッフ 廣瀬)



【World Giraffe Day】

明日6月21日は世界キリンの日 (World Giraffe Day) です。一年間で最も昼が長くなる夏至の日を、最も首が長い動物のキリンにかけて、キリン保全財団 (Giraffe Conservation Foundation) が制定しました。世界中の数多くの動物園やキリンの保護団体などがこの記念日イベントに賛同しており、日本でも世界キリンの日に合わせて多くの動物園で様々なイベントが開催されています。ご興味のある方はぜひ、「世界キリンの日」で検索してみてください。

当館が活動拠点としている一号棟には、キリンの全身骨格標本が展示されています。この標本についての情報は大学の歴史の中で失われていましたが、当館の調査により、このキリンがかつて「長次郎」と呼ばれたキリンであったことが判明しました。長次郎は1940年に上野動物園で誕生し、1942年に井の頭自然文化園に引っ越しました。1944年に死亡したのち本学に運ばれて骨格標本になりました。長次郎の両親は日本で初めて繁殖に成功したキリンである長太郎と高子です。長次郎の誕生よりも前に、同じペアから3頭の子供が生まれていますが、どの個体の標本も現存しないため、長次郎の骨格標本は日本生まれのキリンの標本の中で最も古いものであると言えます。

これまでもご紹介していますが、今年度の当館の企画展ではキリンの長次郎をテーマとする予定となっており、現在は8月のプレオープンに向けて準備を進めています。詳細は決まり次第 facebook でご報告いたします。

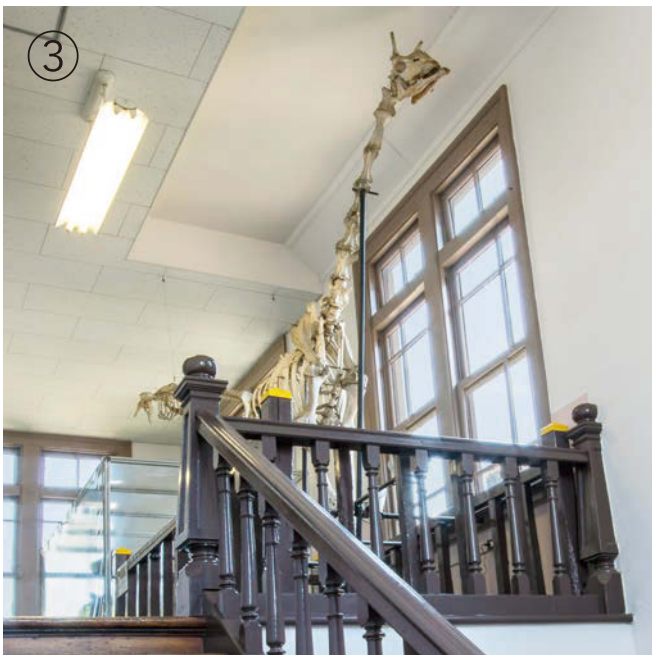
#WorldGiraffeDay

■World Giraffe Day

<https://giraffeconservation.org/world-giraffe-day/>

Giraffe Conservation Foundation の世界キリンの日の紹介ページです(英語)

2023年6月20日の記事



- ① 卒業アルバムに残る長次郎の姿
- ② 長次郎の姿が掲載された父母会広報誌の表紙
- ③ 現在の長次郎(2020年撮影)

【フォロワー 100人記念】

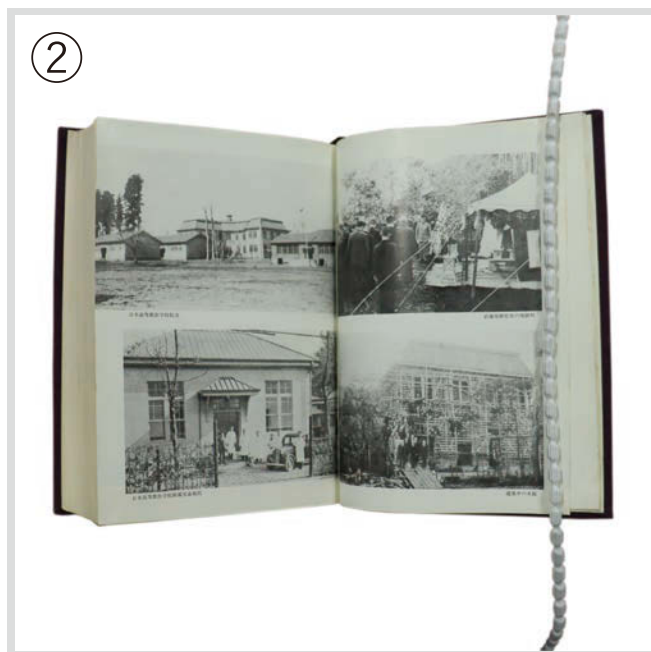
当Facebookページのフォロワーが100人となりました。みなさんの当館の活動へのご理解・ご協力に心からお礼申し上げます。

これを記念して、今回は本学の前身校である日本獣医畜産大学時代に発行した、「日本獣医畜産大学百年史」をご紹介します。

こちらの本は、その名の通り日本獣医畜産大学が、本学の最初の姿である私立獣医学校が創立された1881年(明治14年)から100年が経過したことを記念して1981年に発行した書籍です。

以前ご紹介した「創立80周年記念誌」と異なり、私立獣学校から始まる大学の沿革を830ページにわたり事細かにまとめたものです。博物館では、本書を大学史に関する一番正確性が高く、詳細な情報がある資料として扱い、様々な大学史の調査の折の参考資料として活用しています。

(スタッフ 廣瀬)



- ① 背表紙と箱。かなりの厚みがあります。
- ② 扉写真。左上には以前の本学の校庭から撮影した一号棟の写真があります。
(右端に写っているのはページ抑え用の重しです)

【活動日誌135】学芸員課程実習：展示台の作製

【活動日誌135】学芸員課程実習：展示台の作製

学芸員課程受講生による実習も残りわずかとなってきました。今回は先日ご紹介した藏田先生による1回目の掛け軸の取り扱いの実習に引き続き行われた、藏田先生による2回目の学芸員課程実習の様子を報告します。

この日の実習では、書籍を展示するための台を製作しました。学生たちは先生に用意していただいた冊子の中から自分が展示したいと思う本とページを選び、展示するページに合わせたサイズの台を作成しました。

展示台作りではまず、展示する書籍の形状や開きたいページに合わせて台の形を決定しました。次に、書籍の大きさを計測して台の設計図を作成し、台の材料であるスチレンボードに設計図を書き込みました。最後に、設計図の通りにボードをカッターでカットし、組み立てました。

藏田先生には、展示台をつくる時のコツとして、展示物よりも展示台をほんの少し小さくし、展示物を見たときに展示台が視界に入らないようにすると見た目が良くなると教えていただきました。学生たちは思った通りの大きさの展示台を作るのが難しかったようですが、カッターの扱いに苦労しながらも、1人1台ずつ展示台を完成させていました。

藏田先生による実習はこれで終了となり、次回は馬谷原先生による実習の2回目となります。

(学芸員 石井)

■【活動日誌133】学芸員課程実習：掛け軸の取り扱い

<https://tinyurl.com/5dtnhmzb>

藏田先生による1回目の実習の様子はこちらの記事をご覧ください

2023年6月29日の記事



- ① 展示する書籍とページを選ぶ様子
- ② 書籍を採寸する様子
- ③ スチレンボードに書き込んだ設計図に合わせてボードをカットする様子
- ④ ボードを折り込み、展示台の形に仕上げます
- ⑤ 完成した展示台